



2022年 4月

第322号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長	山本 英次	国際会長 キム・サンチェ(韓国) 主題「世界とともにワイズメン」
副会長	茂木 稔	スローガン「愛と尊敬で世界を癒そう」
書記	花輪 宗命	アジア太平洋地域会長 大野 勉(神戸ポート) 主題:「100年を越えて変革しよう」 スローガン:「健康第一」
会計	小口 多津子	東日本区理事 大久保 知宏(宇都宮) 主題:「私たちは次の世代のために何が出来るか」 スローガン「絆を深める時」
直前会長	花輪 宗命	あずさ部部长 長谷川 あや子(八王子)
担当主事	中里 敦	主題:「道を拓く〜愛と協力によって」
プリテン	茂木 稔 山本 英次 大久保 重子	クラブ会長 山本 英次 主題:「コロナ禍を乗り越えて、新時代のクラブへ」

今月の聖句(2022年4月)

父よ、あなたが私の内におられ、私があるの内にいるように、すべての人を一つ にしてください。彼らも私たちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたが私をお遣わしになったことを信じるようになります。

(新約聖書-ヨハネによる福音書 17:21)

4月 例会プログラム

日時: 4月9日(土曜日) 18:00~20:00

場所: 北野事務所 2階大会議室
(担当A班 菅野、長谷川、小口)

受付: 小口

司会: 菅野

- ・開会点鐘 山本会長
- ・ワイズソング 一同
- ・ワイズの信条 一同
- ・ゲスト・ビジター紹介 山本会長
- ・聖書朗読と食前感謝 小口
- ・会食
- ・卓話: 「ラグビーってどんなスポーツ?」
メンバー 並木 真さん
- ・YMCA 報告
- ・スマイル 大久保
- ・ハッピーバースデイ
- ・報告と連絡事項 会長・各担当
- ・閉会点鐘 山本会長

先月の例会ポイント (3月)

在籍	12名	切手(国内・海外)	0g
メン	9名	累計	0g
メイキャップ	3名	現金	0円
出席率	100%	累計	0円
メネット	0名	スマイル	29,600円
ゲスト	0名	累計	93,610円
ビジター	0名	オークション	0円
ひつじぐも	0名	累計	0円

6年4ヶ月の担当主事

中里 敦

12月号にも「私と八王子クラブ」と題して原稿を書かせていただいたが、私が八王子クラブの担当主事になったのは、西東京センターに異動して来た、2015年11月でした。最初の大きな行事である、クリスマス会が間近に迫り、皆さんがどんな方か分からず、担当主事として何か役割があるのかと不安に思っていたことを思い出します。

(写真はその時の集合写真) クリスマス会は大ひつじぐもをはじめ、多くのゲスト、ビジターを迎えて終始楽しいひと時を過ごしました。

その後もクリスマス会は、ピアノ演奏を聴きながらの食事や語らいなど毎年楽しいプログラムでした。昨年のクリ

スマス会が最後だったのに出れなかったことが心残りです。

皆さんがこの原稿を読んでいる時は、そんな始まりだった担当主事も6年4ヶ月で役目を終え、次にバトンタッチしているんだなあと感じ深く思いながら書いています。また、この期間、担当主事として何かできたのだろうか？と考えると、例会での卓話に多くのことを学び、色々な活動を一緒に楽しんだだけの担当主事だったと反省をしています。

例会での卓話、中大ひつじぐもと一緒に高尾の森わくわくビレッジの草刈りとBBQ、希望の凧揚げ、地雷廃絶と東日本大震災の街頭募金とチャリティーコンサートなど思い出はつきません。

チャリティーコンサートの会場が地域の方だけでいっぱいになるのを見たとき、皆さんの人のつながりの多さに驚き、それぞれどのような生き方をされてきたのか興味を持ったことも憶えています。

中大ひつじぐも、そしてYMCAとのつながりも大切にしてください、多くのユースが八王子クラブを通して良い体験の場が与えられているのも見てきました。

そのような八王子クラブらしさを失うことなく、より活動の場が広がることを祈っております。暖かく受け入れていただき、学びや楽しさの中で過ごせたことに本当に感謝しています。

今では八王子クラブは楽しい居場所の一つとなっていたので、それが無くなるのが寂しさを増しています。でも、八王子クラブとの関係はこれで終わりではなく、続けていきたいと思えます。これからもよろしく願いいたします。



中里さんの初年度のクリスマス会です。場所は昨年と同じく八王子セミナーハウスで行われました。今となっては天に召されてお会いすることが出来ない方が数名この中に居ります。やはり6年半の月日を感じるものです。

久しぶりの対面第一例会（3月12日）

茂木 稔

3月12日（土）は久しぶりに12月のクリスマス例会以来の顔を合わせての会合となりました。

やはり、顔を合わせての場面では充実感がZoom例会とは全く違います。

今回は次期の会の役員の変更やら、本来はこの日3月12日に実施していたであろうチャリティーコンサートの事後処理の問題やらと、多くの議題がありました。先ず、第一議題は来期のクラブの役員・担当者の選任のことです。

当日花輪宗命さんは欠席であった為に、仮決定として花輪会長、副会長：茂木、書記：久保田、会計：長谷川、ブリテン編集：山本、ひつじぐも担当：長谷川、ユース事業主査：小口とこれらの人々が引き受けることが決まりました。

第二に地雷廃絶キャンペーン（JCBL）に対する寄付案ですが、今年も昨年に続いてコンサートが開催できず、この原資の収入が無かったので、クラブの資金よりの支出で年会費10,000に加えて50,000を種出支出して、他に数人の寄付金を加えて、65,000を贈ることにしました。

第三には東日本区本部からのウクライナ募金への寄付金として、クラブの三月例会のスマイルに加えて、クラブ会計より10,400円と個人募金を加えて30,000円を東日本区本部に3月中に送付することとしました。

最後に中里さんから当クラブ主任主事から4月1日付けで山中湖センター館長へと異動が発令され、また、その後任は菅野わくわくビレッジ館長が兼務することになるむねの発表が有りました。

中里さんは約6年に渡り当クラブの担当主事として最高の出席率と、また、コロナ下でのZOOM会議の指導を担って頂きました。この二人の人事異動にさいして3月26日

（土）の第二例会の後の時間に近隣のレストランで歓送迎会を催すことが決まりました。

また、新会長研修会とユース主査よりの報告、世界同時ゴミ拾い活動に呼応して、当クラブでは4月2日（土）10:00より高尾わくわくビレッジのワイズガーデンでの雑草取りの実施が決められました。

中大の追い出しコンパはZoom上で行われることになりクラブからも数名の参加者が加わる予定です。

最後の5月14日（土）13:00～16:30にあずさ部評議会在長野市で実施される予定が実施されることが話され、参加者を募ることになりました。以上が第一例会の主要な事項として検討された内容です。

また、弁当なしの会合となり新しい経験となりました。

とちぎYMCAボランティアリーダー時代の思い出

並木 真

当時のとちぎYMCAの主任主事は、私も小学生の頃から知る山田公平さんでした。大学に入学してすぐYMCAを訪ね、リーダーに申し込みました。

小学生の時に、参加したYMCAのサマーキャンプが、とても楽しかったからです。

当時、YMCAでリーダーが企画、行うプログラムが、毎週土曜午後に小学生の子ども達と遊ぶ「土曜クラブ」、月一のディキャンプ、サマーキャンプ、冬、春のスキーキャンプでした。

私がボランティアリーダーを始めたのが1989年。世の中は、バブルに沸いていました。プログラムは常にキャンセル待ちで、冬の小学生スキーキャンプでは、参加メンバー200名、リーダー20名、大型バス4台という大規模なキャンプがありました。通常活動しているリーダーでは足りず友人たちに声をかけ、かき集めたのを覚えています。私の同じ学科の友人や後輩も参加しました。

当時のリーダーは、宇都宮大学農学部、工学部、教育学部、衛生福祉大学校 看護科、保育科、作新短大、帝京大学、白鷺短大、中央大学（元メンバー）など様々な大学・学部から参加していました。



宇都宮サマーキャンプでのスナック

日常プログラムやシーズンキャンプ、定例会などのリーダー会で、意見を出し合い、たまにぶつかり合いながらも、集まりが終わるとみんなで飲みに行っていたので（YMCAの職員のディレクターもほぼ毎回参加して、資金をご提供頂いていました。当時のみなさんありがとうございます!）、リーダー・ディレクターとは学校よりも深い絆が生まれ、今でも親交が続いています。（しかし、本当によく飲んでいました。）

宇都宮ワイズメンズクラブでは、クラブメンバーの十河さんがリーダーを自宅に招待して下り、お食事をふるまってくれました。

また、サマーキャンプの塩谷キャンプ場のかまどで使う薪がなくなると、ナスハウスの原田さんのところに、取っかけて下された材木の切れ端を取りに行くのもいつもでし

た。このように、常にリーダーの活動も気にかけて下さっていたと思います。今思うと、八王子クラブの中大「ひつじぐも」のように、定例会に出席して、リーダーの活動報告などしていればよかったなと思います。

活動に悩むこともありましたが、そのようなことも含めて4年間ボランティアリーダーをして沢山の経験をさせて頂いた事は、今の私の財産です。

「互いに分かち」

小口多津子

長いこと私達、東京八王子クラブの担当主事でした中里敦さんが、この4月からの異動となられて八王子クラブを去られることになりました。そのことを聞いたときは、皆が本当に信じられませんでした。

そして、すでにクラブメンバーの菅野牧夫さんが今後は、担当主事となられることで、あらためて、よろしくとの歓迎も含めて「歓送迎会」を持ちました。3月26日にクラブ事務会のあと、ほぼ全員出席して、近くのレストランで久しぶりのビールで乾杯し、おいしい料理にこれまでのコロナで曇った空気が、この日だけ一掃された日でした。

中里さんからは、これでお別れではなく、八王子クラブとの関係は続けて行きたいと思っています、と嬉しい一言を伺いました。本当にこれまで、有難うございました。

中里さんは、長いこと国立市にあるYMCA西東京センター長をされていました。私達メンバーも何人かで西東京センターを支援するサポートチームに加わり、センターの年間の行事には、すべて参加していました。

もし仮に、YMCAとワイズメンズクラブという二つの建物があるとすると、その間を行き来する廊下の通路が丁度、中里さんの存在でした。その通路を、われらの仲間の中中央大学学Y「ひつじぐも」も行き来して、YMCAとワイズ、学Yが形になっていました。

八王子クラブ恒例、春のチャリティーコンサート。この時の司会者を決めるのが、いつも大変でした。今から数年前のことですが、司会者がなかなか決まらなかったとき、コンサート直前に中里さんは声の通るすばらしい女性を選んでくださいました。

それは西東京センターのリーダーさんでした。まさに私達にYMCAとワイズとの「コラボレーション」を見せて下さったことが忘れられません。

また、いつもの仲間、ひつじぐもの学生さんが在学中に、西東京センターの立派なリーダーさんになりました。その生き生きと活躍する姿を見たときも、ワイズメンとして嬉しく誇りを味わいました。

私達は若者を送り出すと、YMCAで育てられるということを感じたのでした。クラブで中里さんの影響は計り知れません。これからもお元気でご活躍され、八王子クラブを続けて応援してください。

YMCA 便り

中里 敦

新しい年度は平和が守られ、SDGsの誰も取り残さない年になればと願い、働きもできればと思います。

- ◆「ウクライナ緊急支援募金」を開始し、ウクライナYMCAが行う避難民への宿泊場所や食料品等の提供と子どもたちのケア、近隣諸国のYMCAが協力して行う国外避難民への緊急生活支援のために用いる。なお、東京YMCAとウクライナYMCAは、20年にわたり子どもたちによるクリスマスメッセージ交換等の交流を続けている。
- ◆東日本大震災11周年にあたり、仙台YMCAと石巻広域ワイズメンズクラブとの共催により「3.11追悼と感謝の会・記念礼拝」が開催された。東京YMCAからも会員・職員合わせて12名がオンラインで出席した。また、会員部を中心に都内のいくつかの拠点で、「東日本大震災11周年物産展」が実施された。
- ◆「第23回libyチャリティーコンサート」が開催され、益金165,227円は全額libyの活動を支援するために用いられる。
- ◆「日本YMCAユースボランティア認証」として、東京YMCAから24人が認証され、認証カード、ボランティア手帳等が贈られた。
- ◆12月に実施した「クリスマス募金」は、総額1,980,500円のご支援をいただいた(2月末現在)。国際協力、東日本大震災復興支援、フレンドシップファンド、障がい児プログラム支援のために用いる。

＜東京YMCA主な行事予定＞

- ・「第31回チャリティーゴルフ大会」 4月14日
会場：PGM総成ゴルフクラブ

中大ひつじぐも便り

中大ひつじぐも 古屋希実

みなさんこんにちは。中央大学2年文学部の古屋希実です。ひつじぐもでは、感染対策を行った上でできる対面活動として、昨年の12月から毎月ゴミ拾い活動を行っています。現状としては、中央大学近辺の様々な駅でゴミを拾って駅ごとにどのようなゴミが多いかなどの分析や比較を行っています。

そこで、この活動はSDGsの達成に貢献できるということ、この活動の意義や目標をもう一度見直し今後の見通しを立て、現状では金銭的に難しいような活動にもチャレンジし、さらなる社会貢献をしてきたいということから、Y's×SDGs Youth Action 2022に応募し、3月6日にオンラインのプレゼンイベントに参加して、この活動についてプレゼンしました。

発表の準備にあたって、SDGsを達成するには具体的にどのような活動をしていくべきなのか、どのようなスケジュールにすると達成できそうなのかを考え、伝わりやすいようなスライドを作成することが難しかったです。

また約100人という大人数の前での発表は緊張しました。しかし、このイベントを機にSDGsについての理解がより深まり、良い学びを得ることができました。

そしてプレゼンの結果、私たちひつじぐもは選考していただくことができました。努力が報われたような気がしてとても嬉しかったです。

今後はゴミ拾い活動の継続はもちろん、ポスターなどを作成して学内に掲示したり、Instagramを中心にSNSも活用したりし、ポイ捨てを防止するような対策を考えて実行していきたいと考えています。

また、他の団体とのコラボも考えています。9月頃に中間報告会も予定されているので、作成した計画を実行できるように頑張っていきたいと思います。

今月の聖句によせて (2022年4月)

ワイズの新年度は7月に改まりますが、日本社会全般の新年度スタートは4月からとされます。そこで、心新たにこの区切りを迎えるため、今月の聖句は、YMCA、ワイズメンズクラブの共通の基本聖句である、新約聖書ヨハネによる福音書17章21節としました。あらためて、YMCA、ワイズメンズクラブの基本精神に思いをよせる縁としたいと思います。

また、今年は、ワイズメンズクラブ国際協会創立から100周年の記念の年にも当たります。ハーバード大学出身の新進気鋭の司法官であったポール・ウィリアム・アレキサンダーは、YMCA運動の社会における意義を深く理解し、これに奉仕するとともに、地域に対する奉仕活動も展開するクラブとして、ワイズメンズクラブの運動を提唱しまた主導しました。クラブの名称は、YMCAの最初の文字で「Y」の所有格「Y's」を用いたもので、ワイズメンこそYMCAの人であり、YMCAのための働き人であり、個人としてもクラブとしても、YMCAとともにあることを表現したものであるとされています。当時、YMCAの国際大会は3年ごとに国際されていたというのですが、1922年11月22日、アトランティック市で開催されていたYMCA国際大会のおり、大会議長であったアレキサンダーのリーダーシップによって国際協会創立のための国際憲法が採択され、初代国際会長にポール・W・アレキサンダーが選出されました。

新たな年度の始まりのとき、生命と平和が脅かされる状況にはありますが、このような時にこそ、先人たちの志に聞き、また、今日に至る歴史におもいをせ、今、私達の歩むべき道筋を見出していきたいものと思います。

すべての違いを認め合い、すべての違いを乗り越えて、「すべての人を一つにしてください」と祈ります。

並木 信一

《 報告 》

2022年3月第二例会

日時：2022年3月26日 17:30~18:20

出席者（敬称略）：

会員：山本、茂木、並木（真）、小口、長谷川、望月
大久保、中里、菅野、久保田、花輪、久保田

審議事項：

- ① 次年度役員・担当者の選任について：
花輪次期会長、副会長＝茂木稔、会計兼ユース
担当＝長谷川あや子、書記＝久保田貞視、
ブリテン担当＝山本英次、CS委員長＝小口、
EMC担当＝並木信一、
Yサービス担当＝並木 真、BF担当＝大久保重子、
YMCA 担当主事＝菅野牧夫
でロースターに掲載してもらう。
- ② 新会員加入：7月より 佐藤信也さん（A班所属）
その結果、7月よりの会員数12名
- ③ JCB Lへの献金報告：正会員会費；10000円＋ご寄
付55000円＝65000円 3月14日に送金
- ④ ウクライナ紛争への基金報告：第1例会スマイルほ
かの寄付；合計30000円を東日本区の口座
- ⑤ 担当主事の交代：中里教主事退任、菅野牧夫主事
着任
ブリテンへの写真撮影、閉会后、レストラン・ファ
インで歓送迎会举行

3月26日（土）16:30より中里さん、菅野さん歓送迎会の日の
第二例会の集合写真、その後レストランに移動して会食でした



4月のお誕生日

久保田貞視さん 4月8日

高尾わくわくビレッジ便り

館長 菅野牧夫

わくわくビレッジの桜並木も満開となりました。新年度を迎え、プログラムマネージャーの由井卓哉と事務局長の村山達哉がそれぞれ異動、帰任となりましたので2人よりご挨拶をさせていただきます。少し寂しい春を迎えていますが、わくわくビレッジは新体制で運営を進めてまいります。これからもよろしくお祈りします。

由井 卓哉

いつも高尾の森わくわくビレッジをお支え頂きありがとうございます。私事で申し訳ございませんが、4月よりわくわくビレッジを離れ、早稲田にあるYMサービス株式会社本部に移動になりましたので、ご報告させていただきます。

皆様とはわくわくビレッジの正面玄関前にチューリップやヒヤシンスなどの球根の植え付け作業などを行ったことが思い浮かびます。

今後もYMCAを離れるわけではなく、逆に夏は野尻キャンプ場担当として、またむかでワイズメンズクラブ担当主事として、何かと皆様にお会いする機会もあるかと思っておりますので、今後とも変わらぬご支援・ご指導を頂ければと思っております。本当にお世話になりました。

村山達哉

この度6年間勤務いたしました高尾の森わくわくビレッジを離れ、東京YMCAへ帰任することとなりました。

西東京センター時代から、皆様にはあたたかく声をかけていただき、高尾でもお目にかかる機会があったのは大変喜ばしいことでした。6年間の中で、フロント・プログラム両部門において様々な経験をさせていただきましたが、なかでも東京都からの委託による社会教育事業のうち、中高生を対象とした3泊4日のキャンプに携われたことは、私にとって大きな財産となっております。

4月からは、東京YMCA社会体育・保育専門学校にて勤務いたします。これまでの経験を活かしながら、また新たな形でYMCAの働きに携わってまいります。これまでお支えいただきありがとうございます。今後も高尾の森わくわくビレッジをよろしくお祈りいたします。

